

be エンタ

2009-7-3
朝日新聞社

人生の贈りもの



「うつ状態だったとき、友人らにわかつてもらうのが難しかった」
—高波淳撮影

起り「りそな」とを予想して対応策を考える「仮想演習」。最悪の結果を想定して、そこから逆に原因をたどって漏れを探る「逆演算」。この二つを失敗を防ぐために提案されています。

仮想演習は、原因から結果へ、考

えられることをすべて並べることで、逆演算は、結果から原因へたどる。火事を想定すると、「高温になる物質」から原因へ描いていく。

人的な要因にも頭を巡らせる。丈夫と高をくくっていたら、とんでもないことになつたという経験は非常

に大事です。マニュアルに書いてあるような従来型の「知っている」だけの知識はあまり役に立たない。

何かを想定して、原因から結果、結果から原因と考えることをしてい

ます。ドア事故の原因を調査する「ドアプロジェクト」にかかわり、絵本をつくり、子どもたちに、どこに、どう

残された時間を考え、社会へお礼

「失敗学」提唱者 畑村洋太郎(68)

5

——01年の東大退官前、うつ状態を取ってきて、「知っている」「わかる」ではなく、「何かを作る」という意識が大事なんだ。

——「危険学」も提唱されていましたね

——事故調査など数多くのプロジェクトにかかわられていますね

がある。すると、考え方も変わり、感じ方も変化します。気がなごむ、樂になることはすぐ大事。遊びだけでなく、愚痴をこぼしたり、悪口を言つたりすると樂になることがあります。

——04年の東京・六本木ヒルズの回転

ホームページで、ダウンロードでき

ます。ドアプロジェクトは、社会へのお礼で手弁当でやっている。やりたいことはいっぱいある。確実に死が近づいていると感じているから、頭の中にあることを、出来るだけ早く吐き出したいと思っているのです。

(聞き手・平出義明) =おわり